

令和6年度 年間指導計画及び具体的な評価の方法	2年 国語科	観点別学習状況 評価の観点	観点番号
		知識・技能	1
		思考・判断・表現	2
		主体的に学習に取り組む態度	3

月	指導事項区分		配 当 時 間	指導内容 主な評価規準	観 点 番 号	具体的な評価の方法
	単元	節				
4月	広がる学びへ	見えないだけ	1	・詩を通読する。 ・詩の特徴を生かして朗読する。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。	1	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト
		アイスブラネット	4	・作品を通読する。 ・「ぐうちゃん」の特徴を捉える。 ・「ぐうちゃん」に対する「僕」「母」「父」それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げ、それらに込められた思いを考える。 ・「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。 ・「ぐうちゃん」のほら話に対する「僕」の考えの変化を捉える。 ・「僕」が「ぐうちゃん」の部屋に二度と行かなかった理由を考える。 ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像する。 ・「ぐうちゃん」に対する自分の思いをまとめる。 →「ぐうちゃん」の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる。 ・学習を振り返る。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読んでいる。 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 →「ぐうちゃん」の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係を捉えている。 ・積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、単元テスト
		問いを立てながら聞く	1	・「友達の提案」を聞き、要点をメモする。 ・意見と根拠を整理し、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞く。 評価規準 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	1 2	ノートまたはワークシート
		季節のしおり 春	1	・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	1	ノートまたはワークシート、朗読
		書写	4	・楷書を復習する。	1	ノートまたはワークシート、作品
5月	枕草子		3	・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を 知る。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 評価規準 →現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 →生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。 ・進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト

		情報整理のレッスン 思考の視覚化	1	・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使えるようになる。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合う。 評価規準 ・教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		熟語の構成 漢字に親しもう 1	1	教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 評価規準 ・第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		書写	4	・行書と仮名を硬筆で書く。	1 3	ノートまたはワークシート、 作品
		多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	5	・調べる職業を決め、情報を集める。 ・調べてみたい職業を決める。 ・その職業について知りたい項目や内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。 →図書館や資料館，インターネット，インタビューなど，多様な情報収集の方法を考えさせる。 →複数の情報源で調べる，出典を明らかにするなど，既習事項を想起させる。 ・集めた情報を分類・整理する。 ・複数の情報源から集めた情報を，図や記号，表などを用いて分類・整理する。 →目的に合った情報を精査し，取捨選択する。 ・紙面構成を考え、下書きし，紙面を作る。 ・完成した作品を読み合い，感想を伝え合う。 評価規準 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 ・「書くこと」において，目的や意図に応じて，社会生活の中から題材を決め，多様な方法で集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にしている。 ・粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し，学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
	多様な視点から	クマゼミ増加の原因を探る	4	・本文を通読し、全体と部分の関係に注意して，構成を捉える。 ・文章と図表の関係に注意して，内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を，それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。 ・グラフや模式図，写真などを示した筆者の意図を，それに対応する文章との関係を基に考える。 ・学んだこと、考えたことを話し合う。 ・「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む」筆者の姿勢は，どんなところに表れているかを考える。 ・文章の構成や図表の使い方の中で，効果的だと感じたものを挙げる。 評価規準 ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。 ・文章が六つの部分でできていることを理解し，線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。 ・「読むこと」において，文章全体と部分との関係に注意しながら，主張と例示との関係などを捉えている。 ・「読むこと」において，文章と図表などを結び付け，その関係を踏まえて内容を解釈している。 ・積極的に文章と図表などを結び付け，学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
6 月		思考のレッスン 1 具体と抽象	1	・意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合う。 評価規準 ・意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →問題1，2に取り組み，複数の情報をまとめて抽象化したり，言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。 ・学習課題に沿って，積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト

		力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	5	・提案内容を決めて、情報を集める。 →プレゼンテーションのテーマを決め、相手、話題、目的を確かめる。 ・効果的な話の構成を考える。 →進行案を作り、話の構成や提示資料を工夫する。 ・プレゼンテーションをする。 グループごとにプレゼンテーションをする。 相手や目的にいちばん適した提案をクラスで選び、その理由も含めて話し合う。 ・プレゼンテーションを振り返り、よかった点や改善点を考え、学習を振り返る。 評価規準 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 →相手が自ら動きたいと思えるような言葉や表現を用いてプレゼンテーションをしている。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 →アピールしたい点が効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 →プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 ・粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 朗読、単元テスト
		漢字に親しもう 2	1	・新出漢字を確認する。 ・練習問題に取り組む。 →言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせる ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする 評価規準 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 ・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		文法への扉 1 単語をどう分ける？	1	・P59の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 ・P234 文法1「自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・P234 下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。 評価規準 ・単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解。 →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。 ・今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		メディアを比べよう メディアの特徴を生かして情報を集めよう	3	・メディアを比べて、特徴を理解する。 教科書の例を参考に、メディアによって情報量や配信日時に違いがあることに気づかせる。 ・話し合ったメディアの特徴と根拠を、表や図などにまとめる。 ・目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。 ・大きな災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいかを考える。 →東日本大震災において、通信や出版設備に被害が出たことに触れ、状況に応じて使用できるメディアに制約があることを理解させる。 ・情報の受け取るときの留意点を考える。 どんな情報も、発信者によって編集されたものであることを理解させる。 ・学習を振り返る。 →・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。 評価規準 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 →情報メディアの特徴を、表や図などにまとめている。 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。 →適切な情報を得るためには、メディアの特性を捉え、発信者や配信日時、その文章が書かれた目的などを確認することが重要であると気づいている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 →同一の話題について書かれた複数の情報メディアを比較し、それぞれ特徴について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理している。 →目的や状況に応じて、どのようなメディアで情報を集めたらよいか、考えている。 ・粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト

7月		短歌に親しむ 短歌を味わう	3	・「短歌に親しむ」を通読し，短歌を朗読する。 注意する語句・新出漢字を調べる。 情景を想像しながら，短歌を声に出して読む。 ・短歌についてまとめる。 短歌の特徴についてまとめる。(学習②-1) 本文中から，筆者のものの見方や感じ方がよく表れている表現を抜き出す。(学習②-2) ・好きな一首を選び，自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。 ・「短歌を味わう」を読み，内容や表現のしかたについて感じたことを話し合う。 →グループごとに一首ずつ担当したり，グループの中で各人が一首ずつ担当したりするなど，状況に合わせて活動させる。 「短歌を作ろう」に取り組む。 ・目にした情景，心に残る出来事や感動したことなど，題材を探して短歌を作る。 ・自他の短歌を比較して，表現の特徴や効果について話し合う。 ・学習を振り返る。 →どのようなことに着目して，短歌を読み味わったか。 →短歌の創作において，心情や情景などを伝えるために，どのような工夫をしたか。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また，情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。 ・「読むこと」において，観点を明確にして短歌を比較するなどし，短歌の構成や表現の効果について考えている。 →複数の短歌を比較し，言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。 ・「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →好きな一首を選び，自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において，表現の効果を考えて描写するなど，自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。 →自分の思いが伝わるように，学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。 ・進んで短歌の構成や表現の効果について考え，学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 朗読、単元テスト
		言葉の力	3	・全文を通読する。 注意する語句・新出漢字を調べる。 ・文章を要約して，内容を捉える。(学習①) 三つのまとまりに分け，それぞれの内容を要約する。 筆者の考え方について話し合う。 ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが，何と何が，どのように同じだと述べているのかを考える。 ・美しい言葉，正しい言葉に対する筆者の考え方について，自分はどのように考えるか，話し合う。 ・学習を振り返る。 →自分の考えを広げたり深めたりするために，今後，本や文章をどのように読んでいきたいかを考える。 評価規準 ・本や文章などには，さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り，自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 →言葉に対する筆者の考え方を捉え，本や文章には，筆者の考え方が書かれていることや，それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。 ・「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。 →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち，話し合っている。 ・進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		言葉1 類義語・対義語・多義語	1	・導入の課題に取り組み，言葉どうしの関係性について興味をもつ。 ・教材文を読み，類義語・対義語・多義語について理解する。 →例を基にして，それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 →類義語には，意味が微妙に違うものや，意味は同じでも語感が違うものがあることに気づかせるとよい。 ・「生活に生かす」を読み，言葉の幅を広げるのに，類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 →類義語・対義語・多義語の概念について，具体的な例を当てはめて理解している。 ・今までの学習を生かして，積極的に類義語と対義語，多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト

		言葉を比べよう もっと「伝わる」表現を目ざして	1	・言葉を分類して，類義語を集める。 ・教科書にある言葉を，「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類する。 ・「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選び，類義語を集める。 →国語辞典や類語辞典を参考にさせるとよい。 ・類義語を比較し，わかったことを話し合う。 ・集めた類義語を使って文を作り，そこからわかった違いをまとめる。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 →抽象的な概念を表す言葉について理解し，類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。 ・今までの学習を生かして，積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し，語感を磨こうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		読書を楽しむ 翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま 読書コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう	2	・教材文を通読し，さまざまな読書活動を知る。 ・「本の紹介合戦」，「読書ポスター」，「本のリスト」の中から，夏休みに行う活動を選ぶ。 ・活動の内容に沿って，見通しを立てる。 ・本の紹介合戦は，読書記録を基に本を決め，その魅力が伝わるような紹介のしかたを考える。 ・読書ポスターは，グループでテーマを決め，それに合った本を選ぶ。 ・読書記録は記録のしかたを確認する。 →教材文を基に，手順やポイントなどを示した活動計画書を書く。 ・二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え，発表し合う。 →人物の言動や様子が描かれた表現を基に，人柄や心情の違いを捉えさせる。 ・翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」や読書コラムを読み，「翻訳」の意味や，翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 評価規準 ・本や文章などには，さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り，自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 →活動を通して本の魅力を感じ，今後どんな本を読みたいかを考えている。 ・本や文章などには，さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り，今までの学習を生かして，本の魅力や感想を共有しようとしている。 ・「読むこと」において，観点を明確にして文章を比較するなどし，文章の構成や表現の効果について考えている。 →二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し，表現の違いによる作品の印象の違いについて発表している。	1 2 3	ノートまたはワークシート
		季節のしおり 夏	1	・夏の行事・暦に関わる言葉や，夏の情景を詠んだ詩歌などを味わい，伝統的な言語文化に親しむ。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し，情景を想像している。 ・伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして，積極的に語感を磨き，言語文化を大切にしようとしている。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し，情景を想像している。 ・伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして，積極的に語感を磨き，言語文化を大切にしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート
9月	人間のきずな	盆土産	4	・全文を通読する。 ・作品の構成を捉える。 ・それぞれの場面に描かれた内容を，「時・場所・出来事」の観点でノートに整理する。 ・登場人物の言動の意味を考える。 ・人物の言動や様子を描いた表現から読み取れる，人柄や心情について考える。 →登場人物の言動が話の展開や作品の印象にどう関わっているか考えさせる。また，描かれていない言動も想像して考えさせる。 ・作品中の「えびフライ」「えんぴフライ」という語について，それぞれ話し手のどんな心情が込められているか発表する。 ・自分が捉えた作品の印象を伝え合う。 ・具体的な場面や描写を基に，作品の印象や特徴を伝え合う。 ・学習を振り返る。 →登場人物の言動の意味に着目することで，どんなことが読み取れたか挙げる。 →印象に残っている物語や小説を一つ取り上げ，自分なりの印象を、短くまとめる。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 →登場人物の言動や情景を表す語句に着目し，それらが作品に与える印象を述べている。 ・「読むこと」において，登場人物の言動の意味などについて考えて，内容を解釈している。 →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り，それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。 ・粘り強く登場人物の言動の意味について考え，学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 朗読、単元テスト

		字のない葉書	4	・ 全文を通読する。 ・ 二つの思い出の内容を整理する。 ・ 筆者がこの随筆を書いた時点を，叙述を基に考える。 →必要に応じて，時代状況を解説する。 ・ 表現に着目して，人柄や心情について読み取る。 ・ 前半部分の思い出から想像される父親の人柄を，文章中の表現を踏まえてまとめる。 ・ 妹に対する家族の心情を，妹の行動や様子の変化に着目して想像する。（学習②-2） ・ なくなった父親に対して，今の「私」がどんな思いを抱いているか，表現に即して考える。 →前半と後半で，心情や人柄の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせる。 ・ 父親に対する「私」の思いについて考える。 ・ 自分が共感できることや共感しにくいと思うことを発表し合う。 ・ 学習を振り返る。 →前半と後半で，表現のしかたにどんな違いがあったか，自分の言葉でまとめてみる。 →随筆をより深く味わうためには，どんな点に着目して読むとよいか，友達と考えを交流する。 評価規準 ・ 本や文章などには，さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り，自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)エ） →表現に着目して人柄や心情を読み取り，それを生かして他の随筆を読んでいる。 ・ 「読むこと」において，観点を明確にして文章を比較するなどし，文章の構成や表現の効果について考えている。 →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し，表現の効果について考えている。 ・ 進んで表現の効果について考え，今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 朗読、単元テスト
		聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	1	・ インタビューの準備をする。 ・ 教材文を読み，役割を理解し，「今，夢中になっていること」や「私が輝く瞬間」をテーマに，インタビューの準備を行う。 →「話し手としての準備」，「聞き手としての準備」の両方をさせる。 ・ インタビューを行う。 ・ 教科書の例を参考に，思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 ・ 「話し手」，「聞き手」，「聴衆」の役割を交代しながら，インタビューを行う。 ・ 学習を振り返る。 ・ 「話し手」，「聞き手」，「聴衆」それぞれの立場から，気づいたことや考えたことを出し合う。 評価規準 ・ 言葉には，相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 →どのように質問をすると，相手がさらに話したくなるかを考えている。 ・ 「話すこと・聞くこと」において，論理の展開などに注意して聞き，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめている。 →話の要点や全体像を考えながら聞き，話を広げたり深めたりする質問をしている。 ・ 粘り強く論理の展開に注意して聞き，今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート
		表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	2	・ 手紙と電子メールを比較し，活用場面を考える。 ・ 教科書の例を参考に，手紙と電子メール，それぞれの特徴を表にまとめる。 ・ 伝えたい内容を決め，通信手段を選ぶ。 ・ 手紙や電子メールを書く。 ・ 通信文を書き，気持ちや用件が伝わったかどうかを互いに伝え合う。 →相手や目的に応じて敬語を用いる，気持ちや用件が伝わるように具体例を入れるなど，表現の工夫をさせる。 ・ 学習を振り返る。 →相手や目的に応じて，言葉遣いをどのように気をつけたか。 →通信手段をどのような観点で選んだか。 気持ちや用件が伝わるように，どんな点に注意したか。 評価規準 ・ 言葉には，相手の行動を促す働きがあることに気づいている。（(1)ア） →何かをお願いする文面などにおいて，どのような言葉を選ぶと，相手に引き受けしてもらえるかを考えている。 ・ 敬語の働きについて理解し，話や文章の中で使っている。（(1)カ） →相手や目的に応じて，敬語を適切に使って通信文を書いている。 ・ 「書くこと」において，根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 →自分の思いや考えが伝わるように，具体例を加えたり，表現の工夫をしたりして通信文を書いている。 ・ 積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し，学習課題に沿って通信手段を選び，通信文を書こうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		[推敲]表現の効果を考える	1	・ 木本さんの手紙の下書きを読み，適切な文字や表記に書き改める。 ・ より効果的な表現を考える。 ・ 学習を振り返る。 →どのような点に着目して，手紙を推敲したか。 評価規準 ・ 敬語の働きについて理解し，話や文章の中で使っている。 →手紙を推敲し，適切な敬語に書き改めている。 ・ 「書くこと」において，読み手の立場に立って，表現の効果などを確かめて，文章を整えている。 →読み手の立場に立って手紙を推敲し，気持ちがより伝わるような表現に書き改めている。 ・ 粘り強く文章を整え，今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト

		言葉 2 敬語	2	・導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 ・教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 ・教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。 →P119「生活に生かす」を読み、実際の生活場面で敬語を使うときの注意点について考えさせる。 評価規準 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。 ・今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
10 月		漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう 3	1	・教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉（同音異義語）の使い分けについて理解する。 ・P121の練習問題とP122「漢字に親しもう3」に取り組む。 評価規準 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりしている。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →同音異義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。 ・学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		モアイは語る ——地球の未来	4	・全文を通読する。 ・文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。 →筆者の主張が書かれている段落（結論）を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。 ・筆者が序論で示している問いと、それに対する答え、また、答えの根拠として挙げられている事実を要約し、表にまとめる。 ・論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。 ・イースター島の事例を示した理由について、筆者の主張との関係に着目して考える。(学習②-2) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点から話し合う。 ・筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、自分の知識や体験と重ねて200字程度でまとめる。 ・学習を振り返る。 →「モアイ」は何を語っているのか、「モアイ」「歴史」「未来」の三つの言葉を使って、端的に説明する。 →論理の展開を捉えるとき、どのような点に着目すると効果的か、自分の言葉で説明する。 評価規準 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。((1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。((1)オ) →自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめている。 ・粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		思考のレッスン2 根拠の吟味	1	・教材文を読み、根拠を吟味する方法を理解する。 →P132に示されているような事例が身の回りにないか、考えさせてもよい。 ・問題1，2に取り組む。 →P133のチェックポイントで、根拠を吟味する観点を押さえるとよい。 ・学習を振り返る。 ・文章を読んだり、相手の話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠に説得力があるかどうかを吟味することが大切だということを確認する。 評価規準 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →問題1，2に取り組み、根拠を吟味している。 ・今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト

		根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く	4	・課題を決め、分析する。 ・社会生活の中から課題を決める。 ・表などを使い、観点ごとに長所と短所をまとめる。 ・友達どうして整理した内容を見せ合い、助言し合う。 ・立場を決めて考えをまとめる。 ・賛成・反対の立場を決め、意見を支える根拠を考える。 ・反論を想定して、構成を考える。 ・反論を想定して、それに対する意見を考える。 →双括型を理解させ、「意見→根拠→反論に対する意見→意見のまとめ」の順で構成させる。 ・意見文にまとめる。 ・意見文を友達と読み合う。 ・根拠の適切さについて、説得力があると思ったところや改善点を伝え合う。 ・学習を振り返る。 評価規準 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 →根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりしている。 ・粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		漢字に親しもう 4	1	・新出漢字を確認する。 ・練習問題に取り組む。 評価規準 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		[討論]異なる立場から考える	1	・テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読む。 ・賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述べるのかを考える。 ・一つの情報が、賛成・反対どちらの根拠にもなり得ることを理解する。 →例で示された⑥以外の情報（事実）を根拠にして、賛成・反対の意見を考えさせることもできる。 ・同じ観点でも、根拠とする情報により異なる意見になり得ることを理解する。 ・学習を振り返る。 →異なる立場の人の意見を想定して、どんなことに気づいたか。 評価規準 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →賛成・反対それぞれの立場の人が、根拠となる①～⑧の事実から、どんな意見を述べるのかを考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 →同じ情報を基にしたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気づいている。 ・進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する	3	・討論のテーマを決め、情報を集める。 ・地域や社会で話題になっていることの中から、討論したいテーマを探す。 ・広く情報を集め、整理する。 ・立場を決めて、考えをまとめる。 ・自分の立場を決め、意見と根拠をまとめる。 ・異なる立場の人の考えを予想し、それに対する答えを考える。 ・グループで討論する。 ・討論を振り返る。 ・討論による考えの深まりや広がりについて伝え合う。 ・学習を振り返る。 →客観性の高い根拠を基に考えをまとめたか。 討論をするときに、どのようなことに気がつけたか。 評価規準 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →説得力のある根拠と共に、意見をまとめている。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →地域や社会で話題になっていることの中からテーマを決め、異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめている。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話している。 ・進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト

		音読を楽しもう 月夜の浜辺	1	- 全文を通読する。 - 詩を声に出して読む。 →七音の繰り返しのリズムや反復表現に注意させる。 - 表現に着目し、その効果について考える。 - 反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 - 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 →七音の繰り返しのリズムや反復の効果味わい、情景や心情を想像しながら読む。 評価規準 - 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。 「読むこと」において、詩の構成や表現の効果について考えている。 →詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えている。 - 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト
11月	いにしえの心を訪ねる	源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語	1	「源氏と平家」の資料を読み、「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて知る。 「平家物語」の概要と文章の特徴を知る。 - 冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 - 歴史的仮名遣いに注意して正しく読む。 - 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージをもつ。 - 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読する。 →漢語を交えた七五調のリズムを意識して暗唱することもできる。 評価規準 - 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 - 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 →冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取っている。 - 進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト
		扇の的 ――「平家物語」から	4	- 全文を通読する。 - 歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 「平家物語」の冒頭部分と「扇の的」を繰り返し朗読する。 - 登場人物の言動から、心情を考える。 - 与一、見守る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考え、話し合う。 「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。 →P156「弓流し」の場面も合わせて読み、義経の言動から武士の考え方などを捉えさせる。 - 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。 「扇の的」に登場する人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方について、自分の考えを述べる。 - 学習を振り返る。 - 古典の文章の調子やリズムについて、どんなことを感じたかを発表する。 - 登場人物の言動から、どのようなものの見方や考え方を読み取ったか、まとめたものを見返す。 評価規準 - 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 - 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 →与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 →「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。 - 進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト
		仁和寺にある法師 ――「徒然草」から [書く] 人物の特徴を捉えて論じよう	3	- 全文を通読する。 - 歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →P160「係り結び」 「徒然草」の冒頭部分と「仁和寺にある法師」の原文を朗読する。 - 本文を読み、内容をまとめる。 - 法師の勘違いの内容を、原文やP159の図を使って説明する。(学習②-1) - 法師の勘違いについて、作者がどのように捉えているかを原文から考える。(学習②-2) - 法師と同じような勘違いをした経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合う。(学習③) - 学習を振り返る。 - どんなことに気をつけて文章を朗読したかを発表する。 - 作者のものの見方や考え方について、感じたことをまとめる。 - 人物の特徴を捉えて、文章にまとめる。 - P161「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手順を確かめる。 「扇の的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 - 選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度で論じる。 - 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 - 古典の登場人物の特徴をわかりやすく伝えられるように、文章の構成を工夫したか 評価規準 - 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 - 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ →現代語訳や語注などを手掛かりにして、法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分	1 2 3	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト

				の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →法師と同じような経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合っている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書いている。 ・積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。		
		漢詩の風景	3	・全文を通読する。 ・漢詩の特徴を生かして朗読する。 →漢詩特有の言葉遣いや調子に着目させるとよい。 ・解説を手がかりに、漢詩を読み味わう。 →三編の漢詩に歌われている季節、情景、作者の心情を捉える。 ・好きな漢詩を選び、その理由を伝え合う。 ・P168「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 ・学習を振り返る。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子が感じられる部分を発表する。 ・それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか、話し合う。 評価規準 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 →漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。 「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。 →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。 ・進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、朗読、単元テスト
		君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ	3	・全文を通読する ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の内容を捉える。 ・「最後の晩餐」(P173, 174)の図版と本文を結び付けて読み、「解剖学」「遠近法」「明暗法」が使われているところを理解する。 ・筆者が「最後の晩餐」を「カッコいい」と思った理由について、文章中の言葉を使って簡潔にまとめる。 ・文章を比較して、構成や表現の特徴を捉える。 ・観点を決めて「君は『最後の晩餐』を知っているか」と『『最後の晩餐』の新しさ」を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を確かめる。 ・文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを発表する。 ・考えたことを文章にまとめる。 ・筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考える。 ・文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているかを考える。 ・学習を振り返る。 ・比較によって初めて気づいたことや理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果友達に報告する。 ・二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ、自分が好きな作品について論じる。 評価規準 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →筆者が、どのような例示(具体)を基に、「最後の晩餐」を「カッコいい。」(抽象)と述べているのかを理解している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。 →二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 →文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表している。 ・粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、単元テスト
12月	価値を語る	魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く	3	・作品を鑑賞する。 ・作品を鑑賞し、魅力を一文で表す。 ・根拠となる具体的な特徴、感じたこと・想像したことを付箋などに書き出す。 ・表現の効果を考える。 ・鑑賞文を書く。 →読み手を意識して、200字程度で書く。 ・文章を読み合い、意見交換をする。 ・学習を振り返る。 →作品の魅力が伝わるように、言葉や表現をどのように工夫したか。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →作品の魅力を伝える言葉にはどんなものがあるかを考え、より効果的な語句や表現を選んでいく。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 →作品の魅力が伝わるよう、作品に描かれている様子を具体的に説明している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 →友達と鑑賞文を読み合い、意見交換をすることで、自分の鑑賞文のよさや改善点を見いだしている。 ・進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、単元テスト

		漢字に親しもう 5	1	・新出漢字を確認する。 ・練習問題に取り組む。 評価規準 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 ・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		書写	5	・行書の字形、筆使い、書初めについて	1 3	ノートまたはワークシート、 作品
		文法への扉 2 走る。走らない。走ろうよ	2	・P187の導入や解説、P238文法2「①活用」を読み、「活用」の意味や用語について理解する。 ・P239文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読み、動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。 ・P241文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読み、形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		研究の現場によこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃 クモの糸でバイオリン 読書案内 本の世界を広げよう	1	・研究の現場によこそ」を通読する。 →二次元コードで、教科書に掲載されている文章の続きや、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促す。 ・「クモの糸でバイオリン」を通読する。 ・感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 評価規準 ・本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 →教材文を通して研究者の考え方や探求心に触れ、研究に関わるさまざまな本を読もうとしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 →教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。 ・本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。	3	ノートまたはワークシート
	読書に親しむ	季節のしおり 冬	1	・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 ・伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート
		走れメロス	6	・全文を通読する。 ・作品の設定と構成を押さえる。 ・人物・時・場所・出来事などに着目して幾つかの場面に分け、作品の構成を確認する。 ・場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭から「メロス」が王城を出発する場面までで、「メロス」と「王」はどんな人物として描かれているかを考える。 ・村から刑場に向かう途中で、「メロス」の考え方や心情は、どんな場面でどのように変化しているかを考える。 ・刑場で「王」の人物像は何をきっかけにどう変化したかを考える。 ・作品の魅力をまとめ、語り合う。 ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめ、文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 ・学習を振り返る。 →「メロス」の行動や考え方について、共感できたところ・できなかったところを、理由と共にまとめる。 評価規準 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 →「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 →「メロス」の行動や考え方共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。 ・粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート、 朗読、単元テスト
1月		漢字に親しもう 6	1	・新出漢字を確認する。 ・練習問題に取り組む。 評価規準 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 ・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		書写	6	・行書の字形、筆使い、書初め、硬筆について	1 3	ノートまたはワークシート、 作品

		文法への扉3　一字違いで大違い	2	・P215の導入や解説を読み、付属語の働きについて考える。 ・P244文法3「①付属語」を読み、付属語の種類について理解する。 ・P244文法3「②付属語の種類　1　助動詞」を読み、助動詞の働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ・P246文法3「②付属語の種類　2　助詞」を読み、助詞の種類と働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 評価規準 ・単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。 →助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 ・今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く	5	・これまでに学習してきた物語や小説を振り返る。 ・作品の設定や構成、登場人物の心情の変化について確かめる。 ・生活を振り返り、取り上げたい「ある日」を選ぶ。 ・物語の設定とあらすじを考える。 →P218「構成の例」を参考に、起承転結の流れで構成する。 ・場面の展開が明確になるように工夫しながら、600字程度の物語を書く。 ◇登場人物の呼称を一人称、三人称のどちらかに決め、書き手の視点を貫かせる。 ・友達が書いた物語を読み、助言し合う。 ・学習を振り返る。 →これまでに学習した物語や小説を振り返るとき、どんなところに着目したか。 →場面の展開が明確になるように、どんなところを工夫したか。 評価規準 ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。 →これまでに学習した作品の構成や展開を振り返り、どんな点を自分の文章に生かしたいかを考えている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。 ・粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート
	2月	言葉3　話し言葉と書き言葉	2	・導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ・音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。 →同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) →漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉) 評価規準 ・話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。 →話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。 ・今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		漢字3　送り仮名	2	・導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 ・教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 ・P223の練習問題に取り組む。 →「活用語尾」などについて、P238文法2「用言の活用」で確認させる。 評価規準 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 ・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。	1 3	ノートまたはワークシート、 単元テスト
		国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る	5	・グループで話し合い、壁新聞のテーマを決める。 →1年間でできるようになったことや考え方が変わったことを出し合う。 ・壁新聞の内容を話し合う。 ・内容と割り付け、必要な写真や図を話し合う。 ・壁新聞を作る。 →分担して、記事の下書きをする。 ・下書きを推敲し、記事を清書する。 ・壁新聞を読み合い、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。 →1年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだすことができたか。 →伝えたいことをどのように壁新聞にまとめたか。 評価規準 ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。 →結論を見出しに、詳細を本文に書くなど、構成を工夫して記事を書いている。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 →壁新聞のテーマを話し合う際に出た意見を、表などを用いてまとめている。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 →壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い、結論を導いている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 →伝えたいことの優先順位を考えて、記事の大きさや割り付けを工夫している。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 →読み手の立場に立って推敲し、表現を工夫している。 ・粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。	1 2 3	ノートまたはワークシート

3月		木	2	・ 詩を通読する。 ・ 詩の中の印象に残った表現を挙げ、どんな印象を受けたかを話し合う。 ・ 表現の意味を考える。 →第三連の「木は囁いているのだ」「歩いているのだ」「走っているのだ」は、木のどのような様子を表しているかを考える。 擬人法の効果を考えさせる。 ・ 作者の考える「愛」や「正義」がどんなものなのかを考える。 ・ 作者のものの見方について語り合う。 →「ぼく」が「木」のことを、これほど好ましく思っている理由を考える。 →詩の中で「木」と対比されているものについて考える。 評価規準 ・ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →「愛」、「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。 ・ 「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。 ・ 進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。 1 2 3 ノートまたはワークシート、 単元テスト
		学習を振り返ろう	3	・ P256の小説を読み、学習課題に取り組む。 →長編版「アイスプラネット」の冒頭を読み、教科書の文章と比較する。 ・ P257の提案を開き、学習課題に取り組む。 →大川さんの提案を開き、大川さんが卒業生に伝えたいことは何かを考える。 自分が卒業生に言葉を贈るとしたら、どんな言葉を選ぶかを考え、出典を明らかにして、その言葉と選んだ理由を書く。 ・ P258のメールの下書きを読み、学習課題に取り組む。 →山内さんのメールの下書きを読み、推敲する。 評価規準 ・ 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 →相手の心が動くように、卒業生に贈る言葉を選び、その理由を考えている。 ・ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 →敬語の働きを理解し、電子メールの下書きを推敲している。 ・ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 →根拠を明確にして、卒業生に贈る言葉について書いている。 ・ 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 →教科書の「アイスプラネット」と長編版「アイスプラネット」とを比較して読み、物語の設定の違いを捉えている。 ・ 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 →教科書の「アイスプラネット」と長編版「アイスプラネット」とを比較して読み、登場人物の違いによって、どんな展開の可能性が加わるかを考えている。 ・ 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 →卒業生に贈る言葉を考え、出典や理由を明らかにして、話の構成を工夫している。 ・ 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 →「卒業生に贈る言葉」についての大川さんの提案を論理の展開に注意して聞き、話し手の伝えたいことを捉えている。 ・ 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・ 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 →読み手の立場に立ち、表現の効果を考えて電子メールを推敲している。 ・ 進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている。 1 2 3 ノートまたはワークシート